

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

# JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

群馬県 高崎市立吉井西中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、  
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 山田 優梨菜 先生 (スキー / ジャンプ) 【出場オリンピック / ソチ大会】

■ **期 日** : 2021年11月16日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・自己紹介の後、東京2020大会について、テレビ等で観戦、応援したかを問いつけ、皆の今後の生活において、重要な要素となる3つの価値がオリンピックにはあり、それらはオリンピックバリューと呼ばれ、エクセレンス=「卓越」、フレンドシップ=「友情」、リスペクト=「尊敬」の3つの価値を意識しながらオリンピック教室に参加してほしいと伝えた後、現役時に行っていた準備体操に移る。

○ 主運動 等



・準備運動として、ライン移動ゲームを実施後、主運動として、滑走リレーを実施。  
班毎に分かれ、各自片足にモップシューズを履き、モップシューズを履いた足は床から離さずに滑るように走り、折り返し地点のコーンを回ってリレーを繋ぐ。全員が滑走し、その場に座った時点でゴールとした。



・運動の時間を振り返り、モップシューズを履いて滑走するのは、初めてで慣れないことで大変だったと思う。スキー/ジャンプを始めた頃はスキー板を扱うのが難しく、なぜ思うように扱えないのかを考え、苦しみ悩んだ。初めて扱う用具を思うように扱うことができるようになるには、どのようにしたらよいか、皆にも考えてもらう経験をするために、滑走リレーを実施した。座学の時間では、皆の周りにもある身近なオリンピックバリューを考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 山田 優梨菜 先生 (スキー / ジャンプ) 【出場オリンピック / ソチ大会】

■ **期 日** : 2021年11月16日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 座学の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・長野県小谷村出身で2014年ソチ大会に出場したと自己紹介した後、オリンピックに出場するまでの経緯や出場した際に感じたオリンピックバリューを伝え、皆にも身近にあるオリンピックバリューを考えてもらう時間にしたと授業の目的を確認。
- ・オリンピックを通して、競技に対するモチベーションが下がった時も自分自身を信じる重要性や、仲間との絆、支えてくれる仲間や家族等の大切さを感じることができたと伝え、グループワークに移る。

○ 個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間を振り返って自分自身のオリンピックバリューを考え、書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「チームのために考えて練習した」「全力で取り組んだ」「最後まで諦めずにゴールした」等

フレンドシップ：「仲間を信じた」「雰囲気良くなるように応援した」「課題を出し合って話し合った」等

リスペクト：「お互いに拍手した」「皆がルールを守り楽しくなるように盛り上げた」等



・滑走リレーでも最初は思うように滑ることができず、大変だったと思う。練習や班の皆で話し合っ課題を解決したように、今後の人生の中で大きな壁や、挫折を味わったときも諦めずに向き合ってもらいたい。応援してくれている周りの仲間や家族がいることは当たり前ではないので、日々の生活でも感謝を忘れずに過ごしてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：山田 優梨菜 先生 (スキー / ジャンプ) 【出場オリンピック / ソチ大会】

■期 日：2021年11月16日(火)

■ク ラ ス：2年2組 / 運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・自己紹介の後、東京2020大会について、テレビ等で観戦、応援したかを問い掛け、皆の今後の生活において、重要な要素となる3つの価値がオリンピックにはあり、それらはオリンピックバリューと呼ばれ、エクセレンス=「卓越」、フレンドシップ=「友情」、リスペクト=「尊敬」の3つの価値を意識しながらオリンピック教室に参加してほしいと伝えた後、準備体操を行い、準備運動としてライン移動ゲームを実施した。

○主運動 等



・主運動では、滑走リレーを実施。  
班毎に分かれ、各自片足にモップシューズを履き、モップシューズを履いた足は床から離さずに滑るように走り、折り返し地点のコーンを回ってリレーを繋ぐ。全員が滑走し、その場に座った時点でゴールとした。



・運動の時間を振り返り、滑走リレーを通して、エクセレンス=「班の皆で相談し頑張ったところ」、フレンドシップ=「協力する」、リスペクト=「皆に応援してもらい力が出了」等オリンピックバリューを感じることができたと思う。  
座学の時間では、オリンピックに出場した話を踏まえ、皆が感じたオリンピックバリューを考えてもらう時間にすると伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 山田 優梨菜 先生 (スキー / ジャンプ) 【出場オリンピック / ソチ大会】

■ **期 日** : 2021年11月16日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年2組 / 座学の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・長野県小谷村出身で2014年ソチ大会に出場したと自己紹介した後、オリンピックのイメージを問い掛け、順風満帆で特別な存在だと考える人も多いと思うが、実際は大きな挫折等を経験した選手が多いと話す。
- ・オリンピックに出場するまでの経緯や出場した際に感じたオリンピックバリューを伝え、皆にも身近にあるオリンピックバリューを考えてもらう時間にしたいと授業の目的を確認。

○ 個人ワーク ~ グループワーク 等



- 発問：運動の時間を振り返って自分自身のオリンピックバリューを考え、書き出してみよう。
- 発表：エクセレンス：「転びそうになっても頑張って最後まで続けた」「全力で取り組んだ」等  
 フレンドシップ：「応援をたくさんできた」「お互いにアドバイスをすることができた」等  
 リスペクト：「仲間にも対戦相手にも感謝しながら楽しめた」「ルールを守れた」等



- ・滑走リレーについて、最初は思うように滑ることができず、大変だったと思う。練習や班の皆で話し合って課題を解決したように、今後の人生の中で大きな壁や、挫折を味わったときも諦めずに向き合っていきたい。応援してくれている周りの仲間や家族がいることは当たり前ではないので、日々の生活でも感謝を忘れずに過ごしてほしいと伝え、授業終了。

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

